



クロストークで中山間地域の未来を語る登壇者ら
 ー浜松市天竜区二俣町の天竜壬生ホール

関係人口増で好循環を

天竜区で
 交流会議

中山間地域の振興展望

浜松市と静岡文化芸術大は26日、市内の中山間地域振興について考えるイベント「2023年 まちむらりレシヨン」市民交流会議」を同市天竜区二俣町の天竜壬生ホールで開催した。研究者や学生が事例発表などを通じて中山間地域の今後について展望した。

基調講演で明治大農学部の小田切徳美教授が関係人口の可能性と課題について考察した。小田切教授は地方創生の最大のテーマは「多様な人材の確保にある」と指摘。外部から地域に関わる人々（関係人口）と移住との間には複数の段階があると見たとした上で「面白い人、事例発表として、静岡文化芸術大の学生、天竜高、浜松湖北高佐久間分校の生徒による地域活動の内容を紹介。登壇者を交えたク

ロストークで今後の課題を整理した。静岡文化芸術大文化政策学部の船戸修一教授は「関係人口は可能性がある地域づくりのスローガン。若い芽を育て、新しい価値を見いだしていきたい」と総括した。